

「雇用就農で地域に貢献」

西村 真一（46歳） 雇用就農
（鬼北町）



1 就農の動機・理由

大学卒業後、県外の会社で働いていたが、地元に戻って来たのをきっかけに、同級生が経営している農業法人で手伝いをするようになった。

いろいろな作業を経験しているうちに、農業のやりがいや楽しさを感じるようになり、そのまま農業法人に就農した。

2 農業法人の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和元年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	従業員 4人 パート 8人	従業員 5人 パート 8人	従業員 5人 パート 8人
経営耕地	水田 800a	水田 700a	水田 700a
経営内容	いちご 73a 水稲 800a 作業受託 200a	いちご 73a 水稲 700a 作業受託 200a	いちご 73a 水稲 700a 作業受託 200a

○農業用施設

ビニルハウス 22棟
農業用倉庫 2棟
作業場 1棟
ゲストハウス 1棟

○主要農業機械

トラクタ 2台
田植機 1台

コンバイン 1台
軽トラック 2台
箱バン 1台
パワーショベル 1台
リフト 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県鬼北町
職歴 サービス業
就農研修歴 なし
就農年月 令和元年10月

(2) 就農時の思い

元々体を動かすことが好きだったので、農作業をすることに不安はなかった。農業はやっていると面白いし、やりがいがあると思った。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

技術は、農業法人に入ってから作業をしながら習得した。

現在は、水稲全般といちごの防除・収穫・選別・配達、ゲストハウスの管理・運営等を任されている。

(2) 資金の準備

必要なし。

(3) 農地・住宅の確保

必要なし。

（住宅は実家で親と同居している。）

(4) その他苦労したこと

農業の経験がなかったため、どの作業も初めてだったので、技術を習得するのが大変だった。

新たに開業したゲストハウスの管理・運営を任されている。

5 農業法人の特徴

生産物はスーパー、道の駅、ふるさと納税に出荷している。いちごはこれに加え、観光農園の営業やスイーツ店への販売も行っている。

ゲストハウスは、一般の宿泊客以外に自社で受け入れている農業研修生や農作業支援に来た人達の宿泊にも利用している。

6 これからの夢

ゲストハウスでの宿泊とサイクリングガイドを一体化した活動も行っていきたい。

さらに、ゲストハウスをもう1棟建設し、少しでも多くの人に滞在してもらい、農業や地域のことを知ってもらえるようにしていきたい。

7 成功したキーポイント

前職での経験もあり、接客は得意だったので、農産物の販売やゲストハウスの対応等に役立っている。

また、農業機械の研修を受講し、操作できる農業機械を増やすことで、新しい機械を導入し、それに伴う作業の効率化や省力化が図られたため、各種課題に対応する時間が確保できた。

さらに、週休2日制や有給休暇の導入により働きやすい環境となっている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

夏場の作業は「暑さとの戦い」であったり、農繁期には休みがとりにくいなど、

雇用就農とは言え、いろいろと大変なこともあります。

しかし、収穫の喜びを味わうことができたり、お客さんから「おいしかった」という声をもらった時にやりがいを感じることができます。

○ 指導機関からのひとこと

農業法人などで給与所得を得ながら農作業等に従事する雇用就農では、農地や機械、施設などの確保が不要なため、就農初期の多額な準備費用がかからないというメリットがあります。

西村さんが就農された法人は、農業生産のみならず、観光農園やゲストハウスの運営など、業務内容は多岐に及んでおり、これまでの経験も存分に生かせる環境にあります。

西村さんにおかれましては、これから地域を支える人材として、地域に貢献していただくとともに、ゲストハウスでの交流を通じて農業や鬼北町のすばらしさを広めていただけることと期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室
鬼北農業指導班
電話番号 0895-45-0037



いちごの葉かぎ作業